せたがやでチェンバロを学ぼうシリーズ part.10

クレール・ルフィリアートル&上村かおり



[クレール・ルフィリアートル Claire Lefilliatre (ソプラノ)] カーンのコンセルヴァトワールにてディブロマを得た後、パロック時代 の歌と表現の魅力に強く窓かれ、歌をアラン・ビュエ、ヴァレリー・ギョ リ、そしてパロックの朗唱法と

表現法(ジェスチャー)をウージェンヌ・グリーン、バンジャマン・ ラザールの下で確立する。身体と声との関わりの重要さへの思い から、パリの国立アレキサンダーテクニックセンター (Centre de Formation Technique Alexander) ディブロマコースでアニエス・ プリュノフに領事する。

ル・ポエム・アルモニックをはじめとし、数多くのアンサンブルと共演。 オペラ、歌曲にとどまらず、型にはまらない新しいプロジェクトを生み 出すなど、名実ともにフランスパロック界を代表するカリスマ的存在で ある。

[上村かおり Kaori Uemura(ヴィオール奏者)]

3才でヴァイオリン、12才でヴィオールを始める。上野学園、プリュッセル 王立音楽院を笛席で卒業。ヴィオールを始める。上野学園、プリュッセル の各氏に、また演奏法をミッシェル・マッシーナ氏に師事。これまでに、 ペルギー、フランスを拠点とし、リチェルカール・コンソート、レザール・フロ リッサン、レクラン・リリック、またオランダのバッハ協会などと共演、 アンサンブル奏者として、また数少ないフレンチオペラの通奏低音奏者と して、仲間からの信頼に厚い、さらに、バッハのカンタータを受難曲の ガンバソロに招かれるなど、ヨーロッパの第一線で活躍している。 東京で率いるロイヤルコンソートの、イギリス音楽を中心とした演奏会や、 メモリアルホールで毎年行うシリーズにも定評がある。プリコッセル在住。

① レクチャーとコンサート 11:00~

レクチャー: "バロックの装飾音とディミニューション (Vanité des vanités)"

コンサート: "歌とヴィオールで旅する バロック時代のヨーロッパ"

② マスタークラス 12:20~15:50

※クレール氏による歌のレッスン(2枠)、 上村氏によるチェンバロレッスン(1枠)を募集いたします。

- 1) 12:20~13:10 レッスン
 - (13:10~14:00 お昼休憩)
- 2) 14:00~14:50 レツスン
- 3) 15:00~15:50 レッスン

$\frac{2019}{10}$ $\frac{10}{20}$ (火)

①レクチャーとコンサート 3.000円 ②受講料 10.000円(1名/50分) 聴講料 2.000円(出入り自由)

1日通し券 4.500円

松本記念音楽迎賓館

(世田谷区岡本2-32-15)

- ●東急田園都市線「二子玉川駅」よりバス利用の場合 東急コーチ玉31成育医療センター行き又は、玉32美術館行き 「もみじが丘」又は「岡本三丁目」下車徒歩4~5分
 - ●小田急線「成城学園前駅」よりバスを利用の場合 東急バス都立01都立大学駅北口行き 「岡本三丁目」下車 徒歩4~5分

お申込·お問合せ clavecin.pl@gmail.com

レクチャーコンサート&マスタークラス 開催に寄せて

クレール・ルフィリアートル氏について 「フランスのカーンに住んでいたクレールを見つけてパリに引っ張って来たのは、 今では有名になったル・ポエム・アルモニクを率いる

ヴァンサン・デュ・メストルでした。

このグループの音色を作ったのは彼女だと言えるでしょう。 その初公演のリハーサルで初めて彼女に出会ってから20年以上、

数々の公演を共にして来ましたが、

いつもその存在感と統率力に驚かされて来ました。 そして今では、実力とそして面倒見の良い人柄とで、 フランスのバロック界を牽引する歌手となっています。

彼女の歌声には、人の心を揺さぶる強さがあると思います。

さらに歌の指導者としても大人気なクレールは、 アレクサンダーテクニックの資格を取り、

また、ディミニューションに関する論文作成など、

いろいろな分野に常に前向きに取り組んでいる人です。

クレールのような人に出会えることは音楽家として幸せだと、 わたしは常に思って来ました。

みなさんも、この機会に彼女の歌声に触れて下さい。」 ー上村かおり

上村かおり氏について

「ヨーロッパで活躍するトップのガンバ奏者上村かおりさんとの共演は 私の年に一度の楽しみです。

そんな素晴らしい音楽家である彼女から

チェンバロのレッスンを受けるチャンスを作りました!

チェンバロを勉強するのに、チェンバロ奏者にレッスンを受けるのは当たり前。 でも、実は他の器楽奏者からのアドヴァイスはとても貴重な体験!

特に左手を一緒に弾くガンバは絶対重要!

何を隠そう、自分自身も、チェンバロ奏者からの教えよりも ガンバ奏者からの教えの方が多いという経験で育ったチェンバリストなのです。 さて、限定1名様限りのこのスペシャルチャンスを手に入れるのはどなた?!」

一曽根麻矢子